

宗谷南農協通信

No20





宗谷南農業協同組合
代表理事組合長

向井地信之

新年あけましておめでとございます。皆様におかれましては、ご家族揃って気持ちを新たに輝かしい新年を迎えられたこととご推察致します。

昨年中は、農協事業運営に多大なご理解、ご協力を頂き感謝申し上げますと共に、各関係団体、企業、町内外の多くの皆様にも事業をご利用頂いたことに厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスが発生して以来、ウイルスとの戦いが長期化しておりますが、昨年より感染症の位置づけが2類から5類に移行され、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつあるように思われます。しかしながら、ここ数年は国際紛争、円安などによる飼料・肥料を始めとする生産資材、燃油の高騰、生乳生産の抑制、畜産物価格の下落と、過去に見ない酪農情勢が続いております。

12月の懇談会では令和6年度の営農計画作成の基本方針、上半期決算状況等の説明をさせて頂きました。酪農情勢が一変してから、営農計画書作成は非常に難しいものとなっております。今回も厳しい年度末を迎えるものと推察する中、政府は2024年度の畜産・酪農対策を決定し、加工原料乳生産者補給金の値上げ、さらには物流2024年問題を見据えての集送乳調整金の値上げが決定されたことは明るい兆しであります。

令和5年のクミカン年度乳量（12月～11月）は5万2527トン前年比▲3,894トン、93.1%となりました。

昨年は生乳減産の取組からのスタートでもあり、夏は30度を超える猛暑が続いたことによる個体乳の減退やサルモネラ菌の発症、3戸の離農もあり計画未達となりました。

今後も生産者戸数の減少は避けられない課題ですが、この厳しい状況の中でも新たな就農者誘致に取り組みながら、残された農地を守り規模拡大による乳量の増産、現在乳量の維持に向け乳牛の入替など積極的な支援を行う所存でございます。相談等がありましたら営農部まで相談して頂ければと思います。

昨年までのクミカン等については、個体販売の価格が下落し、また飼料費、燃料費等あらゆる経営の支出に関する物の高止まりもあり厳しいものでしたが、前年からの引続き事業支援となる国からの飼料・肥料の高騰対策事業、肥料購入支援事業、金融対策としての農林漁業セーフティネット資金の活用、又、枝幸町より酪農緊急対策支援事業として助成を頂きながら、組合員皆様方のご努力もあり昨年より良いクミカン精算見込となりました。国・道・枝幸町等から様々な支援策として助成金・支援金を頂いておりますことに、改めてお礼申し上げます。又、農協としましては昨年に続き酪農経営緊急対策支援として飼養頭数を基準とした対策支援をさせて頂きました。

令和6年度の営農計画書の作成については、費

用の高騰と個体販売価格の低落により厳しい組合員もおられますが、乳量については前年度実績を考慮し本年度生産可能な乳量計画でほぼ計画書の作成は完了しています。常日頃より経費節減を図って取り組まれているとは思いますが、「節電・節水・節油」を念頭に置き、このような厳しい酪農情勢が故に尚一層の取組をして頂き、この苦境を乗り越えて頂きたく思います。

組合員の皆様には常に所得の向上の為、生乳生産が基本であり、良質粗飼料の確保の為の土地基盤整備、乳用牛の健康維持の為の飼養管理の徹底が重要な課題とっております。又、量に加え良質乳出荷による質の向上も所得に繋がるものと思われまます。乳質の悪いものを淘汰入替し、所得向上に結び付けながら、将来の強固な安定経営を目指す為にも規模拡大による牛舎新築、増築、育成舎等の施設投資に取組んで頂きたいと願っております。

公共育成牧場につきましては、この牧場の建設趣旨である労働力軽減と枝幸町酪農・肉用牛生産近代化計画に基づいた生乳生産の増産を目的とした施設として、組合員皆様には、どうか趣旨ご理解の上、引き続きご利用頂きますようお願い申し上げます。

当組合の令和5年事業年度末まで残り2ヶ月を切りましたが、この農業情勢下においても一定の収益が見込まれ緊急対策支援等が出来ることは、常日頃から組合員皆様方のご努力、農協事業に對してのご理解、ご協力の賜物と思っております。しかしながら、信用事業の収益に直轄する奨励金の逓減により厳しい状況が予想され、かつ酪農経済についても厳しい状況を迎えており、組合運営も次年度以降厳しい状況を迎える事と推察しております。

す。

Aコープについてはレジのセルフ化、商品のアウトパック化等を取り入れながら少しでも組合員、地元の方のお役に立てるよう取組んでおりますが、今後も組合員の減少、定年退職等による職員の減少もあることから組合員皆様のご理解を頂き、令和6年2月末をもって歌登支所を閉鎖し、お客様の不便にならぬよう最新のATMをAコープへ設置することで本所金融・共済へと業務の集約を行い、更なる効率化に向け対応をして参ります。

今年、第31回J A北海道大会の開催年であり、第30回のJ A北海道大会の実践最終年となり、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の結果を検証し、次のJ A北海道大会に繋げていかなければなりません。

農業情勢は依然厳しい状況の中ではありますが、協同組合運動の原点である「対話」を通じて組合員・役職員が一丸となって取り組む、相互扶助の精神に基づき協力し合い、この難局を乗り越えて行くことが重要となります。消費者に對しては「国消国産」、今まで以上に農業・食に對する理解を求め安定経営を目指すことが重要と考えます。最後になりますが、まだ暫らく冬期間が続きますので病氣、ケガ、事故に十分注意頂き、全組合員が常に前進する事を願い、この1年も皆さまにとって満足できる年となることを心からお祈り申し上げます。新年の挨拶と致します。

宗谷南農業協同組合

代表理事 組合長	向井地 信之
理事・総務委員長	下山 勲
理事・業務委員長	小野寺 俊一
理事・営農生産委員長	吉田 明彦
理事・業務副委員長	小林 政夫
理事・営農生産副委員長	筒井 正道
理事 兼 参事	松本 巧
理事 兼 金融共済部長	清野 盛
理事 兼 生活食料品部長	竹内 浩文
代表 監事	平田 勝一郎
監事	福井 金吾
監事	寺前 吉幸

他 職員一同



年頭の挨拶



北海道農業協同組合中央会
代表理事 会長 榎井 功



新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先は天候に恵まれ地域によって降雹被害や竜巻の被害が見られたものの、概ね、平年並みに推移しておりました。しかしながら夏場は猛暑による記録的な高温多湿の影響を大きく受け、各作物の生育自体は、全般的に平年よりも早く進んできましたが、各作物等の収量および品質の低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは昨年5月より5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっております。

さらにこれららの影響を受け、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっております。

現在、日本の食料自給率は38%しかありません。

これは、世界の先進国の中で最低の水準であり、6割以上の食べ物を輸入に頼っているのが日本の現状です。

食料安全保障の強化が国家の喫緊の課題であることから、我が国の食料供給基地である北海道農業が果たしてきた役割、そして北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

J Aグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいく必要があります。行政や全国連とも連携し、しっかりとその対応を図って参ります。

今年、第31回 J A北海道大会が開催されます。

また、第30回 J A北海道大会の実践最終年度であり、決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の成果をしっかりと検証し、次の J A北海道大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで以上に農業・食に対する理解を求めため、J Aグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させ、より効果的な情報発信を行い、J Aグループが提唱する「国産国産」の認知を広めて参りましょう。

結びになりますが、本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がとどのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊穡の年となること、皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



新年の挨拶



J A 宗谷南女性部
部長 山崎 由香里



新年あけましておめでとございます。年頭にあたり謹んで新春のお祝いを申し上げます。皆様におかれましては、日頃より女性部活動に対しまして、ご理解とご協力を頂いておりますこと心よりお礼申し上げます。

昨年は、不安定な国際情勢や円安、それに伴う物価高騰が長引いており、先が見えない不安感が消える気配がありません。また、夏の酷暑による乳牛の疾病と死廃の増加、泌乳の激減、町内の牛サルモネラ症多発もあり、経営や防疫に苦慮されたことと思います。このような暗い話題が多い中、新型コロナウイルス感染症が5月から5類感染症に移行したことを機に、様々なイベントや行事が開催されるようになり、人の往来が増え社会全体に明るさや活気が少しずつ戻ろうとしています。

私たち女性部においても、部員の要望から料理・園芸・手芸の3グループを立ち上げて、それぞれで思い思いの楽しい活動を行っています。また、初の試みとして東宗谷農協女性部の皆様と交流会を企画しました。同じ宗谷管内で酪農に従事する女性としてお互いに宗谷の女性部大会などで会うことがあっても、なかなかゆっくり話す機会がこれまでありませんでした。お互いに打ち解け

て楽しい交流会が出来るか、期待と不安がありました。当日はおいしい昼食を食べながらお互いの女性部でどのような活動をしているのか、女性部運営のお話、また、日頃の悩みや笑い話、盛り上がるビンゴゲームなど。会場から笑い声が沢山飛び交う、和気あいあいとした交流会となりました。

また、料理グループの部員が中心になって、「子供と一緒に作るブッシュドノエル・ポテトサラダ・唐揚げ」として、部員以外の参加も呼びかけて3組の親子に参加して頂き、女性部活動を周知できたことは良かったと思います。こうして、誰かと顔を合わせて同じ時間を共有して、笑いあうことができるということは、生活に明るさと軽やかさを与えてくれる元だと、改めて感じさせてくれました。

新しい年も、日々の生活の楽しみ、リフレッシュとなるような活動を目指し、部の運営体制、考え方など試行錯誤しながら、活動を積極的にしていけたらと思っております。

最後に、本年もJ Aを始め関係機関の皆様にご女性部に対しより一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。部員の皆様、組合員の皆様、そのご家族が健康に過ごされることをご祈念申し上げます。新年の挨拶と致します。



J A 宗谷南女性部

部長 山崎 由香里

副部長 大塚 真央

副部長 樋口 睦美

理事 小出 正子

監事 重松 ゆき

監事 吉悠子



新年の挨拶



光熱費などの費用全てが高騰し、経営が非常に厳しい状況となっております。また、夏場の記録的な猛暑により生乳生産に大きく影響しましたが、来年は補給金等の価格が値上げされることから、さらなる生乳増産をしていきたいと思っております。

新年あけましておめでとうございます。

年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶申し上げます。旧年中は部員並びに組合員様、ご家族様、また宗谷南農協始め各関係機関の皆様方には日頃の青年部活動に対しまして、ご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスが5類へ引き下げとなり活動が活発になったことや、野球の大谷翔平選手や将棋の藤井聡太棋士などの同年代の前人未踏の活躍に奮起させられた一年となりました。

昨年の牧草収穫は、1番草収穫時期の好天により収穫適期に収穫できたものの、気温の高さから牧草の生育が早まり、成分の低下がみられていることから良質粗飼料の確保に苦慮した一年となりました。

国内の酪農情勢については肥料や資材、水道

青年部の活動としては、イベントが開催できるように牛乳の無料配布を再開いたしました。また12月に行われた全道JA青年部大会もコロナ禍以前のように現地開催となり大いに盛り上がりました。来年も乳製品の消費拡大活動や食育などの活動もより一層に行いたいと考えております。

最後になりますが、旧年中はご迷惑や至らない部分が多々ございましたが、本年も青年部の更なる発展を目指し、部員一同邁進して参りますので今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



							JA 宗谷南青年部
監	監	理	理	副	副	部	
事	事	事	事	部	部	長	
榊	井	佐	山	後	山	高	
原	上	藤	崎	藤	崎	橋	
	英	良	知	亮	紀	慶	
孟	之	介	紀	介	幸	大	





他
職
員
一
同

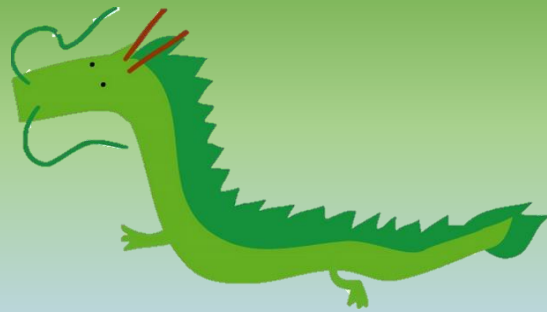
監 事	代 表 監 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	副 組 合 長	組 合 長
山 崎 知 紀	安 井 一 晃	松 井 康 有	田 辺 谷 初 男	井 上 誠 治	山 崎 紀 幸	廣 山 辰 徳	玉 村 勇 司	真 壁 哲 也

宗
谷
南
酪
農
へ
ル
パ
ー
利
用
組
合



監 事	代 表 監 事	理 事	理 事	理 事	理 事	副 組 合 長	組 合 長
今 賢 二	高 橋 慶 大	榎 原 孟	井 上 英 之	松 田 司	堤 寿 浩	関 口 真 也	藤 山 祐 介

宗
谷
南
乳
牛
検
定
組
合



監 事	監 事	副 組 合 長	副 組 合 長	会 長
山 岸 也 須 彦	政 木 大 治	真 壁 哲 也	大 塚 悟	向 井 地 信 之

宗
谷
南
乳
質
改
善
協
議
会

昨年中は組合員皆様のひとかたならぬご理解、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。今年も自己研鑽を重ねて知識と技術の向上を図り、コントラ部門、育成牧場部門共に、組合員皆様の一助となるよう努力して参ります。また搾乳部門では、第一次産業の衰退を防ぐ為、乳量の確保や将来枝幸町へ就農する担い手の受入先としての役割を果たして参ります。

何卒、昨年と変わらぬご利用・ご活用を賜りますようお願い申し上げます。皆様におかれましても、健康で稔り多い年であります様ご祈念申し上げます。



枝幸郡枝幸町幸町8121番地3
株式会社 アグリサポート枝幸
代表取締役 向井地 信之
専務取締役 安 部 正昭
常務取締役 若 山 栄

ホクレンRTKシステム実演会

令和5年10月24日、ホクレンRTKシステムの実演会が行われ、ホクレン稚内支所立ち合いの元、JA宗谷南役職員及び稚内開発建設部が参加し、自動操舵にて走行している様子を見学しました。

ホクレンRTKシステムとは、従来のGPSより更に正確な補正信号を受け取ることが出来るシステムで、自動操舵を利用する上で重要なものとなっております。

当日は(株)アグリサポート枝幸の佐々木明氏がトラクターを運転し、何名か実際にトラクター

に相乗りし、自動操舵での作業を体験しました。外周を走行中、高い木々の横を走行していた際に、衛星からの受信が一部遮られ、測位が不安定になる場面もありましたが、その後は問題なく走行しておりました。

酪専地帯での導入は当農協が初めての事例となっており、今後は実際の農作業を通じて活用出来る可能性を検証し、組合員の皆さんには導入に係る注意点等を明確にした上で、説明会や実演会等を考えております。



小原農業経営局長来町

令和5年11月1日、宗谷地区の現地調査の為、北海道農政部小原農業経営局長が枝幸町へ来町されました。

最初に草地畜産基盤整備事業（草地整備型【公共牧場整備事業】）を活用し、新設した枝幸町公共育成牧場の牛舎等を視察し、その後、新規就農者の経営状況等の聞き取りの為、米田牧場を訪問しました。その他、向井地組合長との懇談において枝幸町を取り巻く酪農情勢等を確認し、次の視察場所へと向かわれました。



J A 宗谷南女性部生活工夫展

令和5年10月31日、酪農振興センターでJ A 宗谷南女性部の生活工夫展が、4年振りに開催されました。

この日の為に作成された、陶芸や籠、ドライフラワーや植物で作った絵画など数々の作品を会場一杯に飾り付け、来場者の目を引き付けました。

また、自家製のチーズやパウンドケーキ、ぶどうゼリーやカボチャプリンなど手作り料理の試食などもあり目と口で楽しむ事が出来、会場は大いに盛り上がりました。

当日、会場では久しぶりに出席者全員で昼食を取り、厳しい酪農情勢の中でも、コロナ禍以前のような開催が出来た事が、今後の前向きな営農にも繋がり、そして来年度も無事に開催できるように頑張ろうなどの話をしながら来年の開催を願いつつ工夫展を終了しました。



辰